

## ジュニア・レポート Vol.6

岐阜県各務原市立那加中学校  
実施日：2018年10月12日（金）

### 学校紹介



東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー小中学校訪問の岐阜県での訪問先は各務原市立那加中学校。2018年10月12日、全校生徒約600名の那加中学校にフラッグを持ってきたのは、岐阜県出身でシドニー2000大会で女子マロン金メダリストの高橋尚子（たかはしなおこ）さんです。オリンピックフラッグを振った2年生の山口蓮（やまぐちれん）さんとパラリンピックフラッグを振った同じく2年生の丹羽美羽（にわみゆう）さんにジュニア・レポーターとして、フラッグを振った感想や高橋尚子さんにインタビューしていただきました。

### 自己紹介



那加中学校2年の山口蓮（右）です。生徒会で副会長をやっています。部活ではハンドボール部に入っています。ハンドボールの醍醐味はシュートで、ゴールが決まった時は盛り上がります。また、攻守の切り替えが早いところが楽しいです。

2年の丹羽美羽（左）です。生徒会で書記をやっています。これまではクラス長をしていましたが、学校をより良くしたいと思ったので、生徒会に立候補しました。スポーツはバドミントンをやっています。

### フラッグを振った感想



（山口）重たかったというのが第一印象です。大きな舞台である東京2020大会に関わることができて嬉しかったです。

（丹羽）物理的に重かったのもありますが、多くの人たちの思いがこもっている重さも感じました。

### 高橋尚子さんへの質問



（山口）マラソンを始めたきっかけは何ですか

（高橋）中学校の時に陸上部を選んだのがきっかけです。特に足が早い訳ではなかったのですが、走るのが好きだったのとピストルを持てるのが楽しみで陸上部に入りました。つらい練習を一緒に乗り越えることができる友達ができたり、先生や周りの支えもあって大好きになりました。

（丹羽）マラソンをこれまで続けてこられた理由は何ですか

（高橋）好きだな、楽しいなという気持ちが続いたからだと思います。練習はすごくつらくて、多い時は1日で80kmも走ることもありました。逃げたくなることもありましたが、そんな時は中学生の時の楽しく走っていたことを思い出していました。始めた時の気持ちを最後まで忘れずに、1日の最後を楽しい気持ちで終えていたことが長く続けられた秘訣です。

### 東京2020大会に期待すること

（山口）サッカーのワールドカップで、サポーターがユニフォームを着て応援した後に、清掃活動をした話を知り、ボランティアとして東京2020大会に参加したいと思いました。

（丹羽）会場に行って応援してみたいです。会場に行けなかったとしても自宅で選手を応援したいと思います。